

## 《参考資料》

ユニバーサルデザインについて(61)

ウェイ・ファインディング・システムについて(64)

公共サインに関するアンケート調査の結果(67)

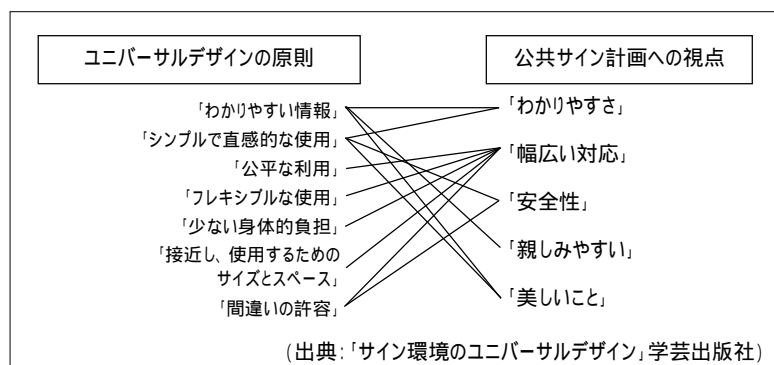
## 参考 ユニバーサルデザインについて

公共サイン環境の質的向上を図り、障害者や高齢者等できるだけ多くの利用者にとってわかりやすい公共サインとしていくためには、ユニバーサルデザインへの対応が必要不可欠となってくる。

戸田市においても、誰にでも開かれたまちを実現化していくためには、積極的に取り組むべき考え方であり、以下に公共サイン環境のユニバーサルデザインの基本的考え方について整理する。

### ユニバーサルデザインの原則と公共サイン計画への視点との関係

ユニバーサルデザインの原則と本計画におけるサイン計画の視点の関係を概略で示すと下図のようになる。「わかりやすさ」「幅広い対応」「安全性」といった一般的原則に、「親しみやすい」「美しい」ことなどがさらにこれからのサイン計画として充実されることを付加している。



### 公共サイン計画への視点

公共サイン計画への視点としてあげた5つの項目について、それぞれ具体的に考え方を整理する。

公共サイン計画への視点	計画の内容	キーワード
「わかりやすさ」	環境を理解しやすいサイン計画	シンプルで直感的な使用 個々のわかりやすさだけでなく、全体のシステムとしてのわかりやすさ 方位、ランドマーク、交差点情報等
	情報の種類と量	サインを必要とする人の求める情報の種類と量に対する的確な判断 サイン情報の氾濫の軽減 利用者自身が必要な情報をストックされたものの中から選択することのできるシステムの導入

公共サイン計画への視点	計画の内容	キーワード
	つながりと配置	誘導サインにおける、適切な配置間隔と前後のつながり・関係性の明確さ 現在地の明示 脱落状況に陥った利用者の救済処置 利用者の行動条件への配慮(周辺のスペースや休憩施設との一体化等) 個々のサインの総合化、ネットワーク化
	見やすさ	絶対的でないサインの大きさと利用者の距離の関係 人の生理特性を考慮した検討 時間帯・天候などの環境条件の配慮
	システムとしての一貫性	サインシステムとしての一貫性を実現するハード技術と、それをサポートするソフト技術
「幅広い対応」	専用と優先、共用	特定の利用者ではなく、不特定多数の人に自由に快適に利用してもらう方法 実際は多少の不便があっても何とか融通しあっていく協調性
	五感へのサイン	感覚機能を併用するサイン 直接的な言語によるサインでなく、色や形、音、振動、においによるサイン
	ヒューマンなサイン	音楽、踊り、手話、触話といった、ユニバーサルなサインの見直し 案内標識等がなくても理解しやすい空間構造(見通し等)
	周辺環境の変化	時間的経過への幅広い対応 時間の変化に対する環境の連続性の確保
	耐久性・メンテナンスフリー	耐久性の高い材料、工法の採用 補修や改造に対応できるシステム
	夜間や雨天時の配慮	利用者によって、使いづらい時間帯、天候が異なる
	緊急時等の配慮	ライフライン被害時における最小限の安全性や行動の確保
「安全性」	間違いの許容	利用者や設置者の間違いや知らない間の過ちの影響を最小限に食い止め、安全を確保できるサイン計画 数多くの利用者に対する行動予測や周辺環境に関する総合的な判断に基づいたサイン計画
	サインのバリアフリー	物理的環境のバリアフリーと心理的環境のバリアフリー 個々の私益性と、設置されたサインの公共性の調和
	安全や安心のサイン	寺社、仏閣、墓苑、記念碑、魔よけのサイン(石敢當、シーサー)、お稲荷さん 不可解な心のサインがあることによってもたらされる現代生活への安らぎと安心

公共サイン計画への視点	計画の内容	キーワード
「親しみやすさ」	らしさの創出	サインはまちの表情をつくり、環境を演出するとともに、うまくいけば、地域の人たちに親しまれ、その地域のアイデンティティの担い手として機能する
	ユーモア・ジョーク	偶然であったサインが語るユーモアやジョークに思わず顔をほころばせる サインだけの狭い目的に終始せず、環境のオアシス空間として人々の心を癒し、新しい活力を与えるような方向性
	かわいらしさ	かわいらしさを演出するサイン、なにかほっとするサイン かわいらしさの構成要因となる形や色・素材・テクスチャーなどの検討
	コラボレーションによるデザイン	作り手と利用者がいったいとなったデザインプロセスの導入
「美しさ」	都市景観としてのサイン	広告看板を含め、都市景観に対する社会的な評価のあり方
	環境としてのサイン	その地域に存在する建物や工作物及び自然事物を含めた総合的な環境の中で、どのようなサインをデザインするかという視点 環境全体の中で環境の質を来訪者や生活者に体感させる重要な役目
	アートとしてのサイン	アートフルな環境づくりへの貢献

## 参考 ウェイ・ファインディング・システムについて

ウェイ・ファインディング・システムの基本的な考え方は、目的の場所まで早く、正確にたどり着けるように、意図的に人を導くだけでなく、目的地までの誘導を、本人が無意識のうちにたどり着けるようにしようとするものである。これは、人間の行動心理に着目した手法であり、現在地と目的地を結ぶ空間的な手がかりを与える「情報のユニバーサルデザイン」ともいえる。

子どもにもやさしく、高齢者にとっても負担の少ないこのシステムについては、戸田市においても、今後、必要に応じて取り入れていくべきシステムであり、面的に公共サインの新設に取り組む際は、導入の可能性、有用性について十分検討を行った上で、必要な場合は導入していくことが望まれる。

### ウェイ・ファインディング・システムの導入のポイント

導入にあたっては、「記憶に残りやすくする」とことと「感覚的にわかりやすくする」ことが重要であり、ウェイ・ファインディング・システムで対象とする諸要素の効果的な活用について以下に整理する。

記憶に残りやすくする	感覚的にわかりやすくする
導入のポイント	効果的な活用
<p>情報取得の選択肢を増やす</p>	<p>情報提供の選択肢を増やす要素として、色彩、記号、アート等がある。また色彩等に意味を付加することで効果が高まることが期待される。図形の単純化、シンボル化は情報を伝えるうえで効果的である。凹凸や素材等の触覚情報により選択肢を追加することも可能。</p> <p>〈色、文字、番号、壁面の模様を組み合わせた事例〉</p> <div data-bbox="673 1317 1337 1563">  </div>
<p>目的地を際立たせる</p>	<p>経路途中で要所となる箇所を目に付くようにするため、色や形などで特徴付けることや目的地の照度に強弱をつけ、その場所を浮き上がらせることで周囲から際立たせることが可能となる。</p> <p>〈目的地の壁面、床面で特徴をつけている事例〉</p> <div data-bbox="689 1753 1353 1977">  </div>

<p>方向性を持たせる</p>	<p>複数の選択肢がある場合などに、目的地や主要経路へ導くため、色や形等で方向性を与える。</p> <p>(デザインや図形の繰り返しで示している事例)</p> 
<p>関係性や意味性を持たせる</p>	<p>空間構成が均質で方向感覚を失いやすい場所などの場合、周辺の地理関係等と関連付けて、提供する情報の意味が理解できるようにする。</p> <p>(地下のゴミ箱等のサービス施設と、地上建物のデザインに関連性を持たせている事例)</p> 
<p>情報の一貫性と変化</p>	<p>現在の位置や経路上にいることが確認できるように、誘導する方向にウェイ・ファインディングの諸要素を一定の間隔等で繰り返し使用して連続性を出すと、同エリア内に属するという統一感が出る。</p> <p>(目的地の選択肢と特定エリアの色彩を統一させている事例)</p> 
<p>ランドマークを設置する</p>	<p>経路途中に印象に残る要素を配置して、記憶をたどる際の手掛かりとなるようにする。具体的には、大きな樹木や、アート等が考えられる。</p>
<p>主要動線を目立たせる</p>	<p>主要動線と副動線が判別できるよう、デザインを変えて、現在地から目的地までの情報を提供する。主要動線とそれ以外の道路は、路面の素材や街路灯、ストリートファニチャー、看板の掲示方法(高さ、形、大きさ、色)等を変えることで、主要動線上であることをわからせる。</p> <p>(主要動線の路面のデザイン・大きさにより区別している事例)</p> 

